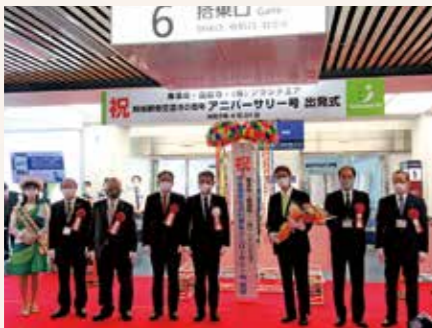




機体の横に「茶ノミコトくん」(霧島市)と「かいづっち」(海津市)が仲良く並ぶ。



鹿児島空港での出発式

今年4月24日、「鹿児島県霧島市・岐阜県海津市姉妹都市交流50周年アニバーサリー号」が就航しました。これは霧島市と海津市の交流50周年を記念した旅客機で、株式会社ソラシドエアにより運航。機体には両市のマスコットキャラクターがデザインされています。来年10月26日まで、名古屋をはじめ東京・沖縄など14路線で飛行します。

和45年に姉妹都市盟約を締結しました。昨秋に、盟約締結50周年を迎え、現在では官民一体となった交流に発展しています。就航当日は、鹿児島空港で出発式を行い、関係者でくす玉を割って祝いました。新型コロナウイルス感染症の影響により、実施が半年見送られていましたが、この日ようやく実現し、両市の絆を示す記念機体が上空へと飛び立ちました。

そのほかの市町村交流

- 鹿児島市と大垣市
- 日置市と関ヶ原町・大垣市

霧島市
海津市

交流50周年記念機体が飛ぶ！
霧島市と海津市が空で共演

御楼門の大扉。2枚1対で、1枚が高さ5メートル、幅2.5メートル、重さは約1.4トンある。



岐阜県から贈られたケヤキ。幹周りは4メートル、長さ8メートルある。



姉妹県盟約の周知啓発期間中(7/24~7/30)は、20:10~21:00の間、1分おきに2種類の青色でライトアップ。

昨年3月に完成した鹿児島城(鶴丸城)跡の御楼門。この復元プロジェクトには、岐阜県からの協力もありました。平成27年に鹿児島で御楼門復元に向けた協議会が設立され、同年に岐阜で「鹿児島県との友好の証プロジェクト」が発足。宝暦治水の恩返しを込めて、岐阜県産ケヤキが贈られることになりました。贈呈されたのは樹齢約300年の巨木。このケヤキ材は大扉に使われ、重厚な雰囲気を出しています。

開門1周年を迎えた今年4月からは、御楼門と石垣のライトアップをリニューアルし、日没から午後10時まで季節に合わせて多彩な光の演出が楽しめます。さらに、各種イベントや普及啓発月間にはそれぞれのシンボルカラーでライトアップを実施。鹿児島県・岐阜県の姉妹県盟約の周知啓発としては、7月24日~7月30日の間、両県のイメージカラーである青色で交流の絆をアピールします。

鹿児島県
岐阜県

御楼門の大扉は、
岐阜県からの贈りもの



前夜祭燈籠

前夜祭では光の川が出現。紙燈籠は山下小学校の生徒と平之町内会の手作り。

また、岐阜県海津市の治水神社では春と秋に例大祭が開催されます。薩摩義士顕彰会は鹿児島県内で参加者を募って、参拝団を派遣しています。「薩摩義士の偉業、彼らの精神を伝えていく。これまでの100年間でそうであったように、今後も変わることはありません」と幹事の四本紘さん。薩摩義士顕彰会は、薩摩義士の軌跡に光を当て続けています。

住民が参加して交流を深めます。会場には2000個の紙燈籠が並び、木曾三川をイメージした光の川が浮かび上がります。また、岐阜県海津市の治水神社では春と秋に例大祭が開催されます。薩摩義士顕彰会は鹿児島県内で参加者を募って、参拝団を派遣しています。



頌徳慰霊祭

平田鞆負像の前で行われる慰霊祭。岐阜県からの訪問団も参列。*今年も昨年同様に規模縮小し、神事のみ開催。

お問い合わせ/鹿児島県薩摩義士顕彰会 電話 090-1369-3216

世代を超えて続く交流
鹿児島・岐阜青少年ふれあい事業

鹿児島県と岐阜県は、姉妹県盟約締結をきっかけに「鹿児島・岐阜青少年ふれあい事業」を実施しています。姉妹県盟約締結の翌年、昭和47(1972)年から続いており、これまでに参加した方は3000人以上にのぼります。この事業では、鹿児島県・岐阜県の青少年が両県の深い歴史的交流を学び、交流を深めます。郷土に根ざした青少年活動の活性化を図り、青少年の育成に寄与する目的もあります。



令和元年7月、岐阜県団員による鹿児島訪問(平田公園)



薩摩義士碑で献花。先人たちに感謝の気持ちを伝える。

毎年、鹿児島県・岐阜県で青少年(中学生以上、おおむね30歳まで)20名をそれぞれ募集。両県の青少年は隔年で互いの地を訪問し、研修に参加します。研修では、薩摩義士関連のものを含む史跡を見学するほか、自然や文化を体験します。研修終了後は、過去の事業参加者で構成する団体に所属します。鹿児島県の参加者は「鹿児島県『美濃の会』」、岐阜県の参加者は「岐阜県さつまの会」に入会。薩摩義士関連活動や社会貢献活動などに積極的に参加し、交流事業で学んだことを活かしています。